

目 的：聖書解釈に関する基本的な考え方について学びます。

テキスト：

- ・南野浩則「聖書を解釈するということ」（いのちのことば社 2020）
- ・G.D. フィー、D. スチュアート「聖書を正しく読むために」（いのちのことば社 2014）
- ・講義ノート
- ・必要なサブ・テキストは講義内で紹介します。

I テキスト・レポート 「聖書を正しく読むために」

A4 2,000 文字程度に、指定された章のまとめ、その章への意見を記して提出してください。

1. 序論
2. 基本的なツール
3. 書簡 文脈な中で考えることを学ぶ
4. 書簡 解釈学的問題
5. 旧約聖書の物語文
6. 使徒の働き
7. 福音書
8. たとえ話
9. 律法
10. 預言書
11. 詩編
12. 知恵
3. 黙示論

II レポート

以下の課題の各グループ A, B, から各々1 題を選び、指定された期日に提出するか、E-mail（添付）で送付してください。

A.

1. 記述言語、表現言語、要求・約束言語の区別の必要性を述べてください。
2. テキストが示す意味を解明するために、文脈が果たす重要性について議論してください。
3. テキスト独自の世界観（テキストの自律性）という考えが、聖書解釈に貢献できるとすればそれは何でしょうか、あるいは貢献できないとすればその理由を記してください。

B.

1. 組織神学と聖書神学との関係を述べ、その関係をどのように教会宣教に貢献させることができるか、

意見を述べてください。

2. 講義中に検討した聖書批評学の方法論の一つを選び、その評価を行ってください。
3. 聖書翻訳についての課題を挙げ、聖書翻訳がどのように日本の宣教に役立てることができるのかを論じてください

★各レポートA 4で 6,000 文字以内でお願いします。

Ⅲ読書レポート

講義内に指定する書物を 1 冊選び、内容をまとめて、それに対する自分の意見を述べてください。

青野太潮「どうよむか、聖書」(東京：朝日新聞社 1994)

ジョナサン・カラー「文学理論」(東京：岩波書店 2003)

上村静「旧約聖書と新約聖書」(東京：新教出版社 2011)

野家啓一「物語の哲学」(東京：岩波書店 2005)

藤本満「聖書信仰 その歴史と可能性」(東京：いのちのことば社 2015)

W. ブルッゲマン「聖書は語りかける」(東京：日本基督教団出版局 2011)

※オンラインのみの受講者は上記の書物を入手してアサイメントに応じていただいても結構ですし、解釈学に関する書物をご提案くださって、それを南野が認めることでも構いません。

★各レポートA 4で 2,000 文字以内でお願いします。

★評価について

減点法で行います。評価基準は、①論理的に論述されているかどうか ②内容に見合った構成であるかどうか ③自らの意見として提示できているかどうか この3点を中心とします。

学生の方々の意見をまとめることが課題レポートの趣旨になっています。従って、内容そのものへの意見を応答として講師が述べることはあると思いますが、内容について講師と意見が違っているからと言って減点にはなりません。逆に講師と同じ意見であっても、以上の評価に照らして減点することがあります。論述された内容をご自分のものとして理解し、それをレポートできているかどうか、この2点が重要だと考えています。

コース選択

A track 上記の条件でブック・レポート、レポート、読書レポートを提出してください。

B track 以下の条件でブック・レポートを提出してください。

- ① 指定されたテキストは毎回読んでください。3,000 文字以内にまとめてください。
- ② A,B,のいずれかの提出を免除しますので、免除対象を選択して下さい
- ③ 読書レポートは提出して下さい

本科生は A track は必須です。伝道者課程生、聴講の単位取得希望者は A track あるいは B track を選択してください。A track の最高評価は A となり、B track の最高評価は B+ となります。

講義計画 「聖書を解釈するということ」